

アメリカ女性参政権100周年記念オンラインシンポジウム

女性の政治進出で 分断社会を乗り越えられるか

1920年8月26日アメリカ合衆国の女性たちは合衆国憲法修正第19条により参政権を獲得(拡張)しました。100周年を迎えた今年、連邦議会の女性議員は過去最多の127人(全体の23.1%。下院の世界ランキング82位)を数えます。その背景には女性候補を支援する運動が広がり、近年は#MeToo運動で声を上げる女性も増えるなど、女性たちのエンパワーメントがあります。一方、いまだにERA(男女平等憲法修正案)は採択されていません。シンポジウムでは歴史を振り返り、さらに今日の分断社会を女性たちの政治進出で乗り越えられるのか。女性国会議員世界ランキング166位の日本の私たちも考える機会としたいと思います。



1920年11月、大統領選で投票するアメリカの女性たち

パネリスト
(発言順)

栗原涼子さん(早稲田大学、東京女子大学他非常勤講師)

メリッサ・スウィーニーさん(米国大使館 政治部安全保障政策課長)

中林美恵子さん(早稲田大学社会科学部教授) ※モデレーター兼

日時 8月26日(水) 14:00~15:45 質疑応答含む

参加費 無料(裏面の参加登録方法をご覧ください)

定員 500名(登録先着順)

開催方法 オンライン 日英同時通訳つき
(限定公開、Zoomウェビナー、8月上旬受付開始)
※プログラムが変更する場合はご了承ください。

- 新型コロナウイルスの感染拡大で会場での開催ができなくなり、オンラインだけになりました。
- 当日オンライン視聴ができない方は、後日ダイジェスト版を配信いたします。
- 希望者には、後日婦選会館でもご覧頂けるようにいたします。

主催: (公財)市川房枝記念会女性と政治センター

共催: 米国大使館

後援: クオータ制を推進する会 / 国際婦人年連絡会 / 国連NGO国内女性委員会

(公財)市川房枝記念会女性と政治センター URL: www.ichikawa-fusae.or.jp
TEL: 03-3370-0238 / FAX: 03-5388-4633 / E-mail: fitikawa.moushikomi@fork.ocn.ne.jp
住所: 東京都渋谷区代々木2-21-11 婦選会館

アメリカ女性参政権について

House Joint Resolution Regarding the 19th Amendment



この議会決議(写真)は、投票資格を女性に拡大することを提案したもので、憲法修正第19条となった。イリノイ州選出の下院議員ジェームズR.マン(女性参政権委員会委員長、共和党)がスーザンB.アンソニー修正条項として知られる決議を導入したことを示している。決議は1919年5月19日に女性参政権委員会に付託され、5月21日下院で可決、6月4日上院で可決された。

Women Marching in Suffrage Parade in Washington, DC



1910年代、女性参政権論者は関心を引くために大きく劇的なデモ行進を始めた。最も重要な行進の1つは、1913年3月3日、ウィルソン大統領就任式前日にワシントンDCで行われた行進である(写真)。全国から集まった5,000人以上の参政権論者が、アメリカ合衆国議会議事堂から財務省ビルまでペンシルベニア・アベニューを行進した。

これは将来の抗議デモの先例となったが、論争も引き起す。全米女性参政権協会(NAWSA)によると、すべての女性と男性の参加が歓迎されたが、主催者のアリス・ポール(全国女性党)は白人女性が黒人女性と一緒に行進をしないのではないかと恐れ、黒人女性を参加させないよう企てた。最終的にNAWSAは、ポールに黒人女性の行進への参加を許可するように強制した。女性参政権運動でも人種差別問題が存在した。

Flag Bearer for Women's Rights Standing Near White House



ウィルソン大統領が女性参政権に関する行動を起こさないことに不満を抱いた全国女性党は、ホワイトハウス前で女性の投票権を要求するためにピケを張った。彼女たちはこのような行動を取った最初の政治活動家であった。ホワイトハウスの外に立つアリソン・ターンブル・ホプキンスが掲げる旗「沈黙の番人」(大統領へ 女性たちは自由を得るのにどれだけ待たされるのか)はこの行動の核心となる課題は何かを示している(写真)。

(いずれも国立公文書館所蔵)

●●● パネリスト紹介 ●●●

栗原涼子さん

ねらい 女性参政権運動の起源、運動の成立と展開の歴史を考える。セネカ・フォールズの全米女性会議で初めて女性参政権が議題となり、南北戦争後の再建期、アフリカ系アメリカ人男性への参政権獲得を契機に、運動家の熱意は高まった。そして、運動の終盤において、第一次世界大戦への戦争協力と引きかえの女性参政権獲得へという論理を形成した。参政権獲得後にERAなどの法整備を求めた過程も再考する。

プロフィール 東京教育大学文学部卒業、サラ・ローレンス・カレッジ大学院修了。岩手県立大学助教授、コロンビア大学歴史学部客員研究員、東海大学教授を経て現在、早稲田大学、東京女子大学他非常勤講師。専門はアメリカのフェミニズム運動史。著書に『アメリカのフェミニズム運動史 女性参政権から平等憲法修正条項へ』(彩流社2018年)『アメリカの第一波フェミニズム運動史』(ドメス出版)他多数



メリッサ・スウィーニーさん

ねらい 米国における女性の政治参加の歴史とジェンダー平等推進の必要性について語る。

プロフィール 現職就任前は、在タイ米国大使館で広報官を務める。それ以前は、中国、ケニア、カンボジア、ワシントンDC、イラクに勤務。国務省では、民主化支援、人権尊重、経済成長、米国との安全保障同盟強化といった幅広い分野を担当する。2002年の国務省入省前は、弁護士として亡命希望者や人身取引被害者の米国移民手続きに関わる。インディアナ大学法学卒業。



中林美恵子さん

ねらい 米国で女性の参政権が確立してから100年。ERA憲法修正は実現しなかったものの、立法府に女性を送り込む努力は着実に功を奏している。日本と同様、米国にクオータ制はないが、女性国会議員数は増加し続けている。その理由として、議員一人ひとりが立法過程に積極的に関与できる仕組み、そして有権者や女性支援団体などが議員の仕事を評価し選挙に生かせること等が挙げられる。日本の立法府にとっても学ぶべき点が多い。

プロフィール 大阪大学博士(国際公共政策)、米国ワシントン州立大学修士(政治学)。米国連邦議会衆議院予算委員会補佐官(米国家公務員)を10年務め、2002年から(独)経済産業研究所研究員、跡見学園女子大学准教授、米ジョンズホプキンス大学客員スカラー、財務省財政制度等審議会委員、衆議院議員(09-12)等を経て現職。米マンスフィールド財団名誉フェロー。著書に『トランプ大統領とアメリカ議会』など。



参加登録方法

- ① 下記URLよりお申込みください。
【記念会 HP】 www.ichikawa-fusae.or.jp
- ② お申込み後、当日の参加用URLがご登録いただいたメールアドレスに自動配信されます。
- ③ ご参加にあたっての注意事項は参加登録フォームに記載してありますので、ご覧ください。